

英語の劣勢比較構文について

小 沢 悦 夫

0. まず次の文を日本語に訳すとどうなるかを考えてみよう。

(1) The more he studied and agonized over his own memo, the less pleased he was.

(B. Woodward and S. Armstrong, *The Brethren*)

(1')a) ますますより少なく愉快になった。

b) ますます不愉快になった。

意識した修辞表現としては(1')a)も可能だが、(1')b)の方が日本語としてはるかに自然である。

そもそも日本語には英語の比較構文に相当する構文はそれ自体としては存在しない。英語なら“-er than ~ (more-than ~)”の形式を使えばよい所を、日本語では「~よりも~だ (~の方が~よりも~だ)」という表現を使うしかない。劣勢比較の場合は、この相違がよりはっきり出てくる。“less-than ~”という決った形式に対して、日本語で直接対応する形式はなく、直訳すれば「~よりもより少なく~だ」としかならない。比較構文自体が日本語になく、劣勢比較という概念も日本語には文法形式として存在しないのであれば、我々日本人にとって劣勢比較構文が理解しにくいのも当然である。この点について安藤(1985, p. 118)は次のように述べている。

「なぜ比較表現が日本語に少なく、英語に多いかと言えば、結局は、彼我の

思考様式の違いという、比較文化論的な事実に突き当たる。つまり、日本人の場合〈我〉と〈汝〉との対立を明確にせず、両者の境界線をあいまいにしておくの好むという傾向があるのに対し、英語国民は我と汝との対立を明確なものにする人生態度が根本的なものになっており、そのような思考様式ないし価値観の違いは、当然、言語的には比較表現の量の違いとして現われると想定される」

この考えが正しいかどうかは別にしても（比較表現の「量」の違いよりむしろ「質」の違いだろうし）、安藤（1985, p. 118）が続けてあげている

(2) a) I couldn't care less. (ちっとも気にしない)

b) It might have been worse. (あれくらいで済んでよかった)

といった比較構文は日本語と発想が違うのは確かである。それでも、この劣勢比較表現の論理は、考えれば日本人にも理解できるということもまた確かである（おそらく (1') a) → (1') b) といった理解のプロセスをとると思われる）。

本稿では、この劣勢比較構文の発想を考え、実際にどのように使われているか実例をあげて、この構文の用法を整理し確認してみたい。

1. 安藤 (1985, p. 131) は「これら (=劣勢比較構文) は有標構文として頻度が低く普通は (...) 無標の比較構文が用いられる」と述べている。これは一応は正しい現状認識と思えるが、他の説も二、三みておこう。

安藤 (1985) が準拠している Gnutzman et al. (1973) は、無標の形容詞は less をつけて書きかえられるが (“less tall = short”), 有標の形容詞に less をつけると不自然になる (“? less short = taller”) と述べている。^[1]

“Less and least are, on the criterion of frequency and because of certain collocational restrictions, marked equivalents of *-er/more* and *-est/most*—almost any *less* comparative can be replaced by an

-er/more comparative if the antonymous adjective is used: 'less tall' = 'shorter' whereas the reverse application, i.e. the replacement of an -er/more comparative by a less comparative, would very often result in rather unnatural sentences:

(40) John is taller than Bill

(41) ? John is less short than Bill

The tendency seems to be that the marked member of an antonymous pair of adjectives does not collocate with *less*, though there are no such restrictions with the unmarked member:

(42) John is shorter than Bill

(43) John is less tall than Bill”

また、彼らの調査報告によれば、彼らのデータ中で優勢比較の文が 653 例、劣勢比較の文が 44 例見出され、ほぼ 15 対 1 の割合になる。この数字も劣勢比較構文の頻度の低さを裏書きしている。

Quirk et al. (1985, pp. 1128-29) はこの構文について興味深い観察をしている。

(3) a) Mary is *less* old than Jane (is).

b) Mary is *less* young than Jane (is).

(3)b) のように有標の形容詞に *less* がつくのは稀だという観察は同じだが、次の場合は劣勢比較構文が普通に見られるという。

(A) 当該形容詞の反意語ペアが確立していない場合 (when there is not an established pair of antonymous adjectives)⁽²⁾.

(B) 当該形容詞の反意語を使うと不快な感じを与える場合 (when an available antonym sounds offensive)

(A) の例はあがっていないが、(B) の例として次の二例があがっている。

(4) a) Caroline is *less* *perceptive* than Rosemary (is).

b) Violet is *less sophisticated* than Felice (is).

この意味を表わすには同等比較の否定形を使うこともできる。⁽³⁾

(5) a) Caroline is *not as/so perceptive* as Rosemary (is).

b) Violet is *not as/so sophisticated* as Felice (is).

そして(4)と(5)の構文の方が次の比較構文より意味がはっきりすると言っている。

(6) a) Caroline is *more imperceptive* than Rosemary (is).

b) Violet is *more unsophisticated* than Felice (is).

つまり(A)と(B)の場合にはむしろ劣勢比較構文を使う方が好ましいということになる。この点をもう少し詳しく調べるとともに、(4)と(5)の用法の違い及び(4)と(6)の意味合いの違いも考えておきたい。

2. まず、有標 (marked) と無標 (unmarked) の形容詞の対比、例えば long (tall) — short, old — young, large — small などの対語が存在する場合、大きい程度を表わす語の方が普通に使われる (中立的な場合を含めて) という点から確認しておく。⁽⁴⁾

背の高さを訊く時は tall を使い、short は使わない。

(7) a) How tall is John?

b) ? How short is John?

(7)b) が使えるのは特別な文脈が存在する時に限られる。

(8) A: I was surprised. John was much shorter than I had expected. He looked so tall on TV.

B: Really? How short was he?

つまり「背が低い」ということが前提とされている時のみ可能で、何の前提もない時 (及び「背が高い」という前提がある時) (7)b) は使えない。

そもそも、何故、程度の高い方の形容詞が無標となるのかの根本的な理由は

よく分からないが、一つには、背の高さにしろ年齢にしろ当然何らかのプラスの数字が存在することが期待されているということがあると思う。⁽⁶⁾ 誰でも何らかの年齢はもっているが、万人が美しい訳ではないので次の二例は微妙な違いがある。

(9) a) How beautiful is she?

b) How old is she?

(9)a) は “She is beautiful.” を含意するが、(9)b) は “She is old.” を含意しない。⁽⁶⁾ (beautiful は勿論注(5)の③に属する)。このことは、答えとして “Terribly.” をおくと、(9)a) は ok なのに (9)b) は out になることから分かる。Bolinger (1977) は (9)a) のような形容詞を *bias* のかかった *normative* な形容詞と呼び、(9)b) の類の形容詞を *neutral* な形容詞と呼んでいる。⁽⁷⁾ 次も Bolinger (1977) の例。

(10) a) Jane is older than Jessica but she is not old.

b) *Jane is lovelier than Jessica but she is not lovely.

normative な形容詞か *neutral* な形容詞かは、確立した反意語ペアがあるかどうかという点と、*<expectancy>* *<inherent quality>* などの点とに関わる。⁽⁸⁾ 前者の点については、(注5)でも触れたが、後者の点については次例を参照 (cf. Bolinger 1977)。

(11) a) Shall I scrub the floor? — Well, how dirty (?clean) is it?

b) Are you willing to sleep on the floor? — How clean (?dirty) is it?

(12) a) How grave (?trivial) was the crisis?

b) How dark (?light) was the night?

(11)が *<expectancy>* の例、(12)が *<inherent quality>* の例ということは説明するまでもないだろう。

確立した反意語ペアのない evaluative adjective の場合はもう少し微妙である。Bolinger (1977) は beautiful の scale の一例として次のものを考えている。

(13) hideous—ugly—unattractive—o—attractive—beautiful—ravishing

勿論他にも多くの形容詞が考えられるが、(13)が与えられると次の例が説明できる。

- (14) a) How ugly is she?—Hideous.
 b) How beautiful is she?—Ravishing.
 c) How ravishing is she?—*Beautiful.

答えには(13)の両端側の形容詞を選ばなければならない。

実例を見ても、Quirk et al. (1985) が述べているように(また(注5)でも触れたように)、劣勢比較構文には old—young のような確立した反意語ペアの存在する形容詞は殆んど現われず、Bolinger (1977) の言う normative な形容詞が圧倒的のようである。

3. Quirk et al. (1985) が、劣勢比較構文が普通に使われる二つの場合の一つとしてあげていたのは「当該形容詞の反意語ペアが確立していない場合」だったが、この構文を保証する根本的な理由は「有標の形容詞で述べられるような事態がトピックとして既に確立しているから」だと思われる。これは(8)の例が ok となる理由でもあり、談話においては、トピックを一貫させることがその cohesion を成立させる上でも最重要因子であることを考えれば基本的な仕組でもあろう(Quirk et al. (1985) のあげているもう一つの場合がこれにあてはまらないのはかえって興味深い)。実例を見ながら確認して行きたい。

- (15) a) Having a tumor generally arouses some feelings of shame, but in the hierarchy of the body's organs, lung cancer is

felt to be less shameful than rectal cancer.

(S. Sontag, "Illness as Metaphor")

- b) The Mongols were the aesthetes of militarism; they believed in gratuitous massacre, in destruction for destruction's sake. Our malice is less pure and spontaneous.

(A. Huxley, "Usually Destroyed")

- c) As for grazing on lips and straying lower — even at their most depraved these amusements are a thousand times less wicked than torturing them alive, ...

(A. Huxley, "Adonis and the Alphabet")

- d) The two men untied the donkey and led it back to Guiliano's house. The donkey's work had just begun; he had a much less pleasant task before him.

(M. Puzo, *The Sicilian*)

- e) If you let Frisella off with anything less than death, the Friends would think you weak and test you further. The *carabinieri* would become bolder, less afraid, more dangerous.

(*ibid.*)

- f) He spoke sincerely. Every day he worked hard in the court trying to decide which of two untrue accounts was the less untrue, ...

(E. M. Forster, *A Passage to India*)

- g) Business by telephone has become slower and less efficient than correspondence.

(P. Howard, *The State of the Language*)

- h) A spoken language is, inevitably, less formal and rule-bound than a written one.

(*ibid.*)

- i) English is becoming looser, quicker, and less precise, as we forget to use the millions of fine and distinct tools in the old literary carpenter's box. (ibid.)
- j) A preliminary examination of the corpus suggested that although explicitness can be realized in several different ways, explicit comparisons are far less frequent than non-explicit ones. (Gnutzman et al., 1973)
- (16) a) They (=Women) have the right, if not to be less virtuous than their grandmothers, at any rate to look less virtuous. (A. Huxley, "The Beauty Industry")
- b) "Traveling is easier than working and less dangerous than hiding," she said. "I've slept in the mountains and in the fields with sheep, so why can't I sleep in a ship or on an airplane? Surely it won't be as cold?" (M. Puzo, *The Sicilians*)
- c) Without the norm, *far* is less strange. (Bolinger, 1977)

(15)の中には descriptive adjective か evaluative adjective よく分からないものもあるが、意味的に (eg. "wicked"), または否定の接辞をつけて反意語をつくる理由で、もしくは (10)b) と全て同じにふるまうという理由で後者に属すると考えておく。(16)の三例は一応反意語をもつということで (dangerous — safe, virtuous — loose (wanton), strange — common) 別グループにしたが意味的には(15)と同じと考えてもよいものである。

(15)a) では「恥の感覚」、b) では「純粋な破壊衝動」、c) では「邪悪さの大小」、d) では「楽しい仕事 (mating) との対比」、e) では「恐怖感の増減」、f) では「嘘の悪質度」、g) では「効率の良さ」、h) では「固若しき」、i) では「正確さ」、j) では「頻度」がそれぞれ話題となっており、その尺度から見

れば、劣勢比較構文の主語になっているものが話題となっている尺度に達していないことを表わしている。同様に (16)a) では「貞潔の観念の変遷」、b) では「危険度」、c) では「異常さ」が話題となっている。

但し、前述の定義で「有標」としたのは厳密に見れば正しくない。old — young といった確立している反意語ペアについて、程度の高い方を「有標」と呼ぶので、もともと確立した反意語ペアをもたない形容詞をこう呼ぶのは相応しくない。

- (17) a) How pure was his intention?
 b) How virtuous does she look?
 c) How shameful do you think his act was?

(17) の例に見られるように、(15) (16) に使われている形容詞にはプラスの bias がかかっているのだから ((15)f) はマイナスの bias), Bolinger (1977) の用語を使って次のように述べ直すのが適当だろう。

- (18) Normative な形容詞で述べられるような事態がすでにトピックとして確立している場合は、そのような形容詞を含む劣勢比較構文が自然に成立しうる。

この一般化は (15) (16) などの典型的な劣勢比較構文だけでなく以下にあげる各種の関連構文にもあてはまる。

- (19) a) Still commoner and no less repellent is the hardness
 which spoils so many pretty faces.

(A. Huxley, "The Beauty Industry")

- b) The other pleasures of the resorts are no less traditional.

(A. Huxley, "Wanted, A New Pleasure")

no less ~ というイデオムも「それに劣らず」とか「同様に」と訳されることから分かる通り (18) の原則に従った用法である。a) では「不快なこと」、b) では「伝統」が前からの話題になっている。

次の例は副詞の劣勢比較構文だが、やはり (18) の原則が準用される。a) では川の下流がかなり汚染されていること、b) では Gaddafi がさかんにテロを行なっていることが前提されている。

(20) a) I thought of other places upon the Passaic River, but, in the end, the city, Paterson, with its rich colonial history, upstream, where the water was less heavily polluted, won out. (*The Autobiography of William Carlos Williams*)

b) Richly as Gaddafi deserved being targeted, the U.S. has been observing a kind of double standard in fingering him as Terrorist Public Enemy No. 1. Less noisily, but less lethally, Syria and at times Iran have been quite as active as Libya in sponsoring, aiding and sheltering terrorists.

(Time, April 28, 1986)

(21) a) Hercule Poirot disliked his dentist... But one of his patients liked Mr Morley even less—and shot him just as Poirot left his office.

(Blurb on A. Christie, *One, Two, Buckle My Shoe*)

b) He knew that the Inspector had always hated him, and he hated the Inspector no less. (M. Puzo, *The Sicilian*)

(21) は less が head adverb として使われている例だが、やはり「嫌悪・憎悪」が話題として確立されている。

次は head noun として使われた less で、原理は (18) と同じと考えてよいだろう。

(22) a) I don't want all that cake—give me rather less of it.

b) She gives them less to eat in summer. (LDCE)

4. 以下、残っている問題にも一通り触れておく。

4.1 まず(4)のような劣勢比較構文と(5)のような同等比較の否定形との用法の違いについてだが、両者の意味自体には大きな相違はない。どちらも、主文の主語の方が比較補文の主語よりも程度が低いことを表わす点では同じである。但し(注3)で述べたことも考え合わせると劣勢比較は *not so ~ as* の意味に近いことも明らかだと思われる。使用範囲も(5)の方がずっと広い。

(6)の構文では、はっきりと否定を示す形容詞が使われているので対象の否定的側面を強調する表現になっている。日本語にあてはめれば次のような(4)と(6)に関する対比が考えられる。

(23) a) 太郎は次郎ほど鋭くない。(=(4))

b) 太郎は次郎より鈍い。(=(6))

つまり、(4)と(6)の違いは、意味がはっきりするかどうかの違いではなく、断定を下す姿勢の違いである。*imperceptive* と言えば *perception* の欠除を意味するだけだが、*less perceptive* と言えば *perception* の欠除もかなりの *perception* の所有も含みうることに注意する必要がある。そして Quirk et al. (1985) があげていた劣勢比較が普通に見られるもう一つの場合、つまり「当該形容詞の反意語を使うと不快な感じを与える場合」のことも合わせて考える必要がでてくる。

4.2 前節で述べた「場合」は要するに婉曲語法であり、修辞表現の一種として考えることができる。

他にも例えば(16)a)、そして(19)の *no less ~* というイディオムも修辞表現の性格が見てとれる。

もともと比較構文は(他の多くの構文と同じく)修辞表現に使われる。

(24) a) “You said Blore was all right—that he was more than a match for Armstrong. So he was physically, and he was on the look-out too...” (A. Christie, *Ten Little Niggers*)

b) We were more than happy to hear of your escape.

c) If you tell your father what you've done, he'll be more than a little angry. (LDCE)

b), c) は very を意味しているにすぎないし, a) は no match とも言えることを比較表現で色合いを強めている。

劣勢比較の例を追加しておく。

(25) a) "... But if you ask me, we've only one danger to fear — and that danger is Blore! What do we know about the man? Less than nothing!..."

(A. Christie, *Ten Little Niggers*)

b) And all of them, suddenly, looked less like human beings. They were reverting to more bestial types. (ibid.)

a) は強調用法にすぎないが, b) は修辞表現としての特徴がよく出た例だろう。subhuman などという単語を使わず「人間」というレベルを設定してそれに到達しない程度だと表現することでギャップの存在をより強く印象づけている。

この他にも “less than no time,” “no less an event than a world war,” “nothing more or less than,” “less and less” 等いくつもの類似表現が多いが, less を含むイディオムの数が多数見られることはこの構文の修辞表現としての面白さを示しているように思われる。

4.3 これまで見てきたように, 英語の劣勢比較構文は日本語にはそれ自体として存在せず, いくつかの興味深い特徴を示している。日本語でこの構文に相当するのは(5)の構文だと思うが, 修辞的な面白さは日本語の方にはない。

そもそもこの構文が可能なのは英語に more — than ~ という決った形式が存在し, それに対して less — than ~ という形式が自動的に保証されることによる(文法形式と安藤(1985, p. 118)の観察との因果関係はなお不明だ

が)。それが優勢比較構文ほど広く使われないのも修辭的な特徴をもつもの(18)の原則や第2節で述べた理由によると思われるが、論理的に考えることで我々日本人も劣勢比較構文の本質を把握しその用法を理解することは充分に可能だろう。

注(1) Gnutzman et al. (1973) は、もう一つ興味深い調査結果を報告している。「比較の基準 (standard of comparison)」が明示されている文の比率は、比較級では25%、最上級では52%である。その理由をこう述べている。

“The comparative construction involves two terms, and because of this, the standard of comparison may be easily indicated by context, e. g. ‘John is the taller’ implies only ‘of the two previously mentioned’. The superlative, however, involves a wider potential range of standards, e. g. ‘This is the biggest book’ may mean ‘the biggest book in the world/in England/the College/this room/this crate’, and it is because of this that there is a greater need for making the scope of the superlative ‘explicit.’”
なお、言うまでもないことだが、比較構文に使われる形容詞は程度を表わすもの (gradable) に限られる。

(i) *Tom s $\left\{ \begin{array}{l} \text{more} \\ \text{less} \end{array} \right\}$ dead than Mary.

但し、次例も参照。

(ii) In English this form (= man → men) is so dead that even such a noun as *Norman* forms its plural *Normans*.

(Henry Sweet)

(iii) Poirot said — but it was hardly a question.

“Dead?”

“What you might describe as very dead.”

(A. Christie, *One, Two, Buckle My Shoe*)

(ii)と(iii)は比喩的、もしくは冗談として使われているので容認可能になっていると思われる。比喩にしても冗談にしても現実世界からは少しかけはなれた世界なのでこれらの文が可能になるのではないだろうか。

- (2) 反意語ペアが確立している場合と言ってもその「確立度」の基準、及びどれを反意語と見なすかの基準もはっきりしていない。おそらく、個人差や文脈に応じて劣勢比較構文を使うか使わないかの判断にかなりのズレが生じるものと思われる。
- (3) not as ~ as と not so ~ as は殆んど同じに使われるが、後者の方が少し formal

という違いに加え、細かく見れば、前者は「同じことの否定」を表わすが、後者は後におかれる形容詞を比較の尺度そのものにするという違いがある。

(i) a) Mary is not as tall as John.

b) Mary is not so tall as John.

b) には Mary も John も背が高いという意味合いがある (cf. 安井他 1976, pp. 299-300)。

この意味から、次の例の not as を not so に置きかえることはできないだろう。

(ii) Beneath the spoken issues lies a suspicion that the law school (of Harvard) may have become too inbred and is not as concerned with legal ethics as it should be.

(Time, September 8, 1986)

Quirk et al. (1985, p. 1138) は、比較補文が省略された時は後者が使われ (但し (16)b) 参照), as ~ as の否定はまず less ~ than の意味をもっと解されるという。

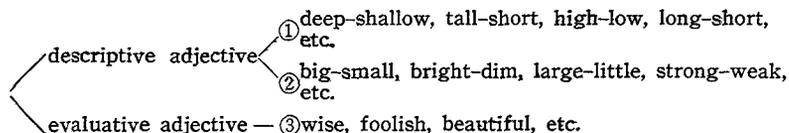
(iii) He's not so naughty (now).

(iv) Caesar was not as ruthless as Attila = Caesar was less ruthless than Attila.

但し(iv)の最初の as にアクセントをおくと more ~ than の意味になるという。

(4) cf. Quirk et al. (1985, pp. 470-2)

(5) 安井他 (1976, pp. 262-3) は形容詞を次の三種に分類している。



①の形容詞は ten feet tall のように数値をつけて使われるもの、②は①のような用法がないもの (*three years big), ③は否定接辞をつけて反意語をつくれるもの (eg. unintelligent, impolite, *untall, *unold) である。このうち①と②は一応確立した反意語が存在しており、(7)a) のように使われるのは典型的には①の形容詞である。②の程度の大きい方を表わす形容詞と③の形容詞は Bolinger (1977) のいう normative な形容詞に当たる。①の無標の形容詞には何らかのプラスの数字が存在することが期待されているのではないかという推定は①の形容詞のふるまいからも確認できる。また、劣勢比較構文の実例は圧倒的に③に属する形容詞が使われており、いくつかの②に属するものも見られる (例えば dangerous, virtuous. cf. dangerous — safe, *undangerous, virtuous — loose (wanton), *unvirtuous)。

(6) 但し、次の例は文字通り「年をとった」という意味である。

参照文献

- 安藤貞雄 (1985), 『続・英語教師の文法研究』(東京:大修館書店)
- Bolinger, D. (1977), "Neutrality, Norm, and Bias" Reproduced by the Indiana University Linguistics Club.
- Gnutzman, C. et al. (1973), "Comparative Constructions in Contemporary English" *English Studies* 54, pp. 417-38.
- Jespersen, O. (1924=65), *The Philosophy of Grammar* (New York: W. W. Norton & Co.)
- Quirk, R. et al. (1985), *A Comprehensive Grammar of the English Language* (London: Longman)
- 安井稔他 (1976), 『形容詞』(東京:研究社)